

日英翻訳ルール

今般の翻訳業務は、意味を加えるなどの意識は出来る限り避けるとともに、大学院講義として相応しい言葉使い(表現、用語等)を用いること。大学院講義科目のテープ起こしにより作成した日本語テキストデータを用いることから、翻訳に際しては以下に掲げる事項に留意して実施すること。

なお、本学における発注文字数については、マイクロソフトWord2016Windows版の「文字カウント」機能を用いて導き出した「全角文字+半角カタカナ」の数値とする。

○フィラー

例：[えーと]、[あの]

→[um]、[ah]のように[]を付けて翻訳

○言い誤り

例：[{|分析}販売データを分析 (言い誤り箇所の英訳が可能な場合)

→[{|analysis}analyze the marketing data

例：[{|担}担当はですね (言い誤り箇所の英訳ができない場合)

→[{|*}the person in charge is...

○数字

例：<17日|十七日|ジュウナナニチ>

→<17th|seventeenth>

○外来語

例：{example|イグザンプル}

→{example}

○ 名詞や略語についてのアノテーションの翻訳

<NAIST|ナイスト> → <NAIST>

^Google|グーグル^ → ^Google^

○ [] と [[]] の翻訳について

文のカッコがシングル[]でもダブル[[]]でも、シングル[]で統一してOK

○ 複合アノテーション

{XX||@_uk_@}

XX の日本語を英語に直していただき、それ以外はそのまま {} も ||@_uk_@ も付けておいてください。